

昭島市教育委員会 殿

学 校 名 昭島市立玉川小学校
校長氏名 小瀬 和彦 公印

令和 8 年度 特別支援教室の教育課程について (届)

このことについて、昭島市立学校の管理運営に関する規則に基づき、特別支援教室による指導を下記のとおりお届けいたします。

記

1 特別支援教室の教育目標

- (1) 発達障害等により特別な支援が必要な児童に対し、児童一人一人の実態や能力に応じた教育を行い、情緒的な安定を図り、社会参加の素地を養う。
- (2) 自分の得意な面と苦手な面を知り、得意な面を活用することで困難を克服することができる児童を育てる。自分の状態を理解したり受け止めたりして、困難を改善しようとする意欲的に取り組むことができる児童を育てる。

2 教育目標を達成するための基本方針

- ・障害の特性を踏まえ、自立活動 6 区分 2 7 項目に基づいた指導を行う。
- ・多様な人間関係の構築、意思の伝達能力の向上を目指す。
- ・アセスメントに基づいて児童の実態を適切に把握し、担任や保護者、児童と合意形成した上で学校生活支援シート・連携型個別指導計画を作成することで、通常の学級と特別支援教室で連携し、個に応じた指導の徹底に努める。
- ・個に応じた指導においては、学習の個性化を図り、学習者の興味関心や個性に合わせた個別指導計画を立てる。
- ・個別指導と、児童の実態や状態に配慮したグルーピングを基にした小集団指導を組み合わせて指導を行う。
- ・小集団指導においては、協働的な学びの場を設定し、他者と協働しながら問題解決や探求を行う学習に取り組む態度を育成する。
- ・担任や保護者、児童との連携を行い、指導と評価を一体化し、指導の充実を図る。

3 指導の重点

- ・自立活動を通して、言葉、動作、表情などのコミュニケーションの能力を伸ばし、多様な人間関係の構築を図る。
- ・学習態勢を身に付けさせ、ルールを守って授業に参加できるようにする。
- ・作業や微細運動を通して、集中力や持続力の向上を目指し、やり遂げる経験を多くもたせる。
- ・担任や保護者、児童と連携し、個々の児童の実態と将来を見据えたキャリア教育を行う。
- ・児童の得意な面と苦手な面を理解させ、自己理解を図る。得意な面を使って苦手な面を補う力を育成し、どのようにしたら解決できるか探ることで、できることを増やす。

4 その他の配慮事項

- ・在籍学級担任、保護者と連携を取り、適応状況を確認し、指導にあたる。
(トライアングルノートを活用、学校生活支援シート及び連携型個別指導計画の作成等)
- ・東京都巡回心理士や医師、スクールカウンセラー等の指導・助言を活用することにより、充実した指導を目指す。
- ・複数担当のよさを生かし、指導の充実のためのケース会議や授業計画を立てる。
- ・特別支援教室への理解を深めるために、通常の学級において理解教育を促進する。校内の教職員に対し、特別支援教育研修を行う。保護者に対し、特別支援教室相談会や保護者会、面談等を行う。
- ・在籍学級の教育活動への適応状況により、指導終了に向けて指導内容や時間などを適宜調整する。
- ・児童一人一人の目標を明確にし、1 年での退室を目指していく。